

## ● 市町村の基本情報

学校数	小学校18校 中学校5校		
地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員		0人
	地域学校協働活動推進員		3人
	統括コーディネーター		0人
	地域コーディネーター		0人
CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小0校	中1校
	地域学校協働本部がカバーしている学校数	小0校	中1校



## ● 活動の実際

## (目的)

- ・ 渥盛協働本部（地域学校協働本部）として、今までにあった地域と学校の連携体制を基盤として、より多くの幅広い層の地域住民、団体等が参画し、緩やかなネットワークを形成することにより、地域学校協働活動を推進する体制である。地域と学校が目標を共有して行う双方向の「連携・協働」型の実現に向けて取り組んでいき、「地域とともに大人と子どもも成長できる渥美」を目指している。

## (活動内容)

- ・ 学校運営協議会の専門部会（教育課程部会、スポーツ文化部会、広報企画部会、生活安全部会、環境防災部会の5つの部会）があり、渥盛協働本部や学校から出された課題について、部会員の専門性を生かした熟議を行っている。また、計画した内容についてボランティアを活用して実行に移す役割もあり、渥盛協働本部と連携して具体的な活動のための準備やボランティアの募集、運営、管理を行っている。（地域学校協働活動ボランティアや職場体験の受け入れ可能な事業所の募集、地域と共に作り上げる「立志歩行」、生徒数減少が進む10年先を見通した地域と共に作る行事等）

## ● コロナ禍での苦勞・工夫

4月にマスクを作るための布の提供をお願いしたところ、地域の多くの方より布やゴムを頂いた。その布を使って、地域学校協働活動推進員をはじめボランティアの方が、布マスクを435枚製作し、6月に手作りマスク贈呈式を行い、生徒会役員に手渡した。

コミュニティ・スクールは、人と人のつながりがあってこそのものである。しかし、人が集まる、人がつながることに対して規制が強いこの状況下では、活動が思うようにできない。現在は、この状況が改善されることを前提に、コミュニティ・スクールとしての活動の準備を行っている。

## ● 成果と課題（○成果、※課題）

○協働本部の設置により、異なる立場の方が参画することが可能となり、それぞれの意見を取り入れ、実行しやすくなった。より柔軟に対応できるようになった。

※活動参加者の高齢化に関連して、今後の活動の後継者育成が課題となっている。

## ● 関係者の声

- ・ 地域との連携もスムーズにいき、学校教育を進める教員の負担軽減につながりつつある。（教員）
- ・ 地域と生徒・教員が多く関わることにより、つながりができ、学校の教育活動に参画しやすくなってきた。（地域）
- ・ 学校や地域に関わる課題を、学校の内外の人がともに話し合うことによって、学校や地域についての理解が深まり、地域とのよりよい関係性を構築できる。（教員・地域）